同志社フェア in 仙台 **報告**　　2017 年 6 月 17 日（土） ～ 18日（日）

≪6 月 17 日（土）≫

●13:00～13:30 東華学校遺址碑 碑前祭 （於： 日本たばこ・東北支社敷地内）

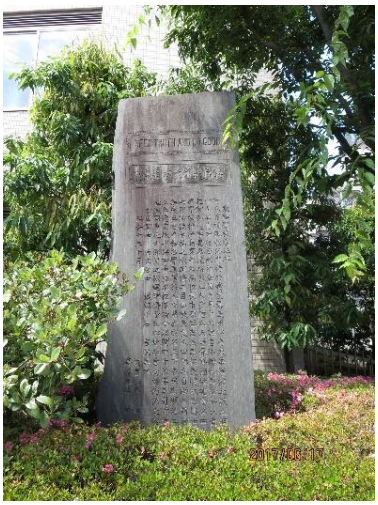
晴天下、東華学校開校 130 周年記念として、松岡同志社大学学長、中村校友会副会長、阿部宮城県支部支部長他 100 名以上の参集のもと執り行われ、讃美歌 234A とｶﾚｯｼﾞｿﾝｸﾞの斉唱、来賓挨拶、献花と続く厳かに、かつ穏やかな式典でした。神奈川県支部からは 9 名が参加しました。

『 SEEK TRUTH AND DO GOOD（真理を求め、善をなせ）』

『 栄虚求勿徳實修（敬宇中村正直）（実徳を修め虚栄を求むること勿れ）』

上記の文言は標語として碑文の上部に刻まれています。

東華学校は同志社の分校として 1887 年 6 月に仙台の地に創立され新島襄が初代校長を務めました。



●14:30～16:45 地域交流ｲﾍﾞﾝﾄ（ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ、ﾏﾝﾄﾞﾘﾝｸﾗﾌﾞ演奏） （於：AER 21 階ﾎｰﾙ B）

東華学校開校 130 周年記念ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ： ﾃｰﾏ「東華学校を語る」

ﾊﾟﾈﾘｽﾄ： 河北新報社 代表取締役社長 一力雅彦 氏

学校法人東北学院 院長 佐々木哲夫 氏

仙台市博物館 主幹・学芸普及室長 菅野正道 氏

ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ： 同志社大学神学部部長 石川 立 教授

初めに、石川教授より東華学校開校の経緯、碑文の文言から日本銀行第二代総裁・仙台藩出身富田鉄之助と新島襄との関係などを話されました。

次に、一力社長の高祖父が東華学校第 1 期生であり、河北新報社を興し「不羈独立（ふきどくりつ）」を社是として東北の振興に尽力したことを話されました。

佐々木院長は東華学校閉校後仙台にとどまり続けたﾃﾞﾌｫﾚｽﾄと東北学院、新島襄にからめて話された。

更に、菅野学芸員は東華学校を継ぐとされる仙台一高の出身との事で、同志社のかかわりにも触れて、奥羽越列藩同盟後の新政府の対応に、“白河以北一山百文”と言われた中、下級武士であった人々が東北を教育、農産業に邁進した事を熱く語られました。

続いて、同志社大学ﾏﾝﾄﾞﾘﾝｸﾗﾌﾞの演奏があり、会場を埋めた 300 余名のみんなから大喝采を浴びました。

●17:00～19:00 交流ﾚｾﾌﾟｼｮﾝ （於:AER 21 階ﾎｰﾙ B）

≪6 月 18 日(日)≫

●9:00～9:40 東北学院内ﾃﾞﾌｫﾚｽﾄ館見学 （於: 東北学院）

ﾃﾞﾌｫﾚｽﾄ館は、新島襄とともに来日し仙台で東華学校と教会の設立に献身されたアメリカ人宣教師 J.H.ﾃﾞﾌｫﾚｽﾄの住居として建てられたもので、1940 年に東北学院に移譲された。歴史的価値が高く、国の重要文化財に指定されており、震災の被害を受けたが再建の予定との事。

●10:40～11:40 礼拝 （於: 仙台北教会）

仙台北教会は宮城英学校の教師が中心となって 1887 年に設立し、ﾃﾞﾌｫﾚｽﾄ牧師との関わりも深い。

讃美歌斉唱、聖書の朗読、祈祷と説教などがありました。

石川 立教授の説教「恵は砕かれた者に」を拝聴しました。その要旨は次の通りです。

『“日本でいちばん大切にしたい会社”の一つ日本理化学工業(ﾁｮｰｸ製造)は障害者雇用割合 7 割を誇っています。そこでは、障害者は生きることや働くことの喜びを教えてくれる大切な存在です。私たちの周りに、運命に砕かれた人々、障害者や弱者がいます。その人々の中に、私たちは恵みの光を認め、生命の真実に目覚めたい。いや、私たち自身が打ち砕かれ、へりくだる者でありたいものです。』

厳粛で、心洗われるひと時でした。

また、神奈川県支部が寄贈し 2015 年 6 月に教会の前庭に植樹された「ｶﾀﾙﾊﾟ」を見学、背丈 170 cmほどに育っていました。

ここまでで「新島襄ゆかりの地ツアー」は終了、仙台駅までバスで送って頂きお開きとなりました。

午後は折角の機会なので、仙台名物の牛ﾀﾝ定食を食べ、仙台城（青葉城）址で政宗公の像にご対面、青葉城資料展示館、そして、たまたまやっていた「仙台すずめ踊り」を見学、その後、政宗公の墓所である豪華絢爛な瑞鳳殿を見学してきました。

←仙台城址（4枚）

←瑞鳳殿

報告者：江澤（s45 経卒）、 写真提供：江澤、木原（s46 工卒）、編集：木原